

Janmadin kī Jay Jay!

ジャンマディン・キー・ジェイ・ジェイ！

グルマーイの誕生日のお祝いの報告
シュリー・ムクターナンダ・アーシュラム
2016年6月23-30日

第9部

礼拝から願い事をし、サイレントパスを歩く ラシュミ・スミス

グルマーイの誕生日のこの素晴らしいお祝いの一環として、私たちはバデ・バーバのダルシャンと夕方の「アーラティー」を歌うために、アヌグラハにあるバガヴァーン・ニッテャーナンダ・テンプルに招待されました。

「アーラティー」の後に神聖な静寂に包まれたテンプルを出ると、子どもたちとその家族のグループに囲まれて、グルマーイがアヌグラハの正面玄関から出てくるのを見掛けました。グルマーイはシヴァ・ナタラージャ像の前に進み出て、プラナムをしました。私たちは急いで彼女の所に行きました。

グルマーイは私たちに大きくほほ笑み掛け、周りに集まるようにと手招きしました。グルマーイは、そのムールティの前にある神聖な火に、黒ごま、蜂蜜、ギー、米、ドライフラワー、ドゥープをささげることで、シヴァ神を礼拝し始めました。グルマーイはそれからナマーサンキールタナの「ジャヤ・ジャヤ・シヴァ・シャンボー」

をチャンティングすることで礼拝に参加するように、私たちに誘いました。礼拝の力は明白でした。私たちはシヴァ神の存在を呼び起こしていると感じました。礼拝の締めくくりとして、グルマーイは花輪とココナツを火にくべました。炎は燃え上がって空に向かって舞い上がり、私たちは歓喜の中で叫びました。「サッドグルナートウ・マハーラージ・キー・ジェイ！」

グルマーイは「シヴァ・アーラティー」を歌うように、私たちに促しました。何人かのセーヴァイトが皆のためにチャンティングシートを取りに行くと、グルマーイはどのチャンティングをしたいか子どもたちに聞きました。子どもたちはたくさんの提案をしました。一番人気があったのは、ヤマン・カリヤーン・ラーガの勢いのある「オーム・ナマー・シヴァーヤ」でした。私たちは何回か熱狂的なチャンティングを繰り返すと、指揮者のクリシュナ・ハダッドが手を挙げ、皆を「シヴァ・アーラティー」へと導きました。

アーラティーのフィナーレでは、私たちは皆甘美な平和に包まれました。すべてが実に完璧で完全であると感じました。これ以上のお祝いは想像できませんでした。しかし、私たちは思いもかけないことに直面しました。

というのはその時、グルマーイは夕食の時間であることを私たちに思い出させました。そして、アートマ・ニディまで一緒に歩いて行こうと、私たちに誘ってくれたのです。

グルマーイは、子どもたちや訪問セーヴァイトとスタッフの列を伴って、先頭に立って歩きました。グルマーイの後に続いて歩いたり、時折小走りになったりしていると、たくさんの畏敬の念と喜びを体験し、また私の周りの皆の目にも同じような

驚嘆が見受けられました。私たちはここで、文字通りに敬愛するグルマーイの足跡をたどっていました。

グルマーイはニッテャーナンダ湖に架かる橋の上で立ち止まりました。私たちは彼女の背後で立ち止まり、湖をのぞき込みました。湖の底には石で丸く作られた願い事をかなえてくれる井戸がありました。近くにいた私たちはポケットの中を探って、子どもたちに硬貨を手渡しました。私たちは子どもたちが願い事をかなえてくれる井戸に慎重に狙いを定めて、硬貨を投げ入れるのを見ていました。それは陽気で楽しい、とてもいとおしい瞬間でした。

グルマーイはサイレントパス(沈黙の小道)に着くと深い草に覆われた土手の斜面で立ち止まり、頂上まで競走するようにと 4 人の少年を促しました。彼らが駆け上ると、私たちは拍手して声援を送りました。勝者は大人の一人に高々と肩車されました。少年たちが急な斜面を駆け上っている姿は、まるで星に触れるために走っているように見えたと言いました。

グルマーイは少年たちの内の 2 人の手を握り、サイレントパスを駆け下り始めました。私たちは皆笑い、歓声を上げ、驚きと喜びの表情を分かち合いながら、グルマーイの後を追いかけて走りました。グルマーイと一緒に走った時にいかに遊び心に満ち、奔放で自由に感じたかを、後に多くの人々が私に語りました。私たちが歩いていくにつれて、グルマーイは前に進んでは立ち止まったので、私たち全員が追いつくことができました。恍惚(こうこつ)の中に浮かぶ、さざ波のように、私たちは一緒に旅をし続けました。

後でその日の夜に、インドから来ている若いセーヴァイトのプシュカル・ドゥートゥは、グルマーイと歩いたことで、彼が子どもの頃に家族と一緒にグルデーヴ・シッダ・ピートゥを訪れた時の甘美な記憶を思い出したと、私に語りました。「子どもの僕たちはいつでもグルマーイの後を追いかけていたものです」と、彼は言いました。「彼女がアーシュラムの中を歩き回る時、私たちは彼女と手をつないだり、彼女と話したりしました」

次に私たちが立ち止まったのは、サイレントパスの小川に架かるアーチ状の小さな橋でした。

グルマーイはエスワイディーエー・ファウンデーションの理事のマイケル・カーリンを、小川にココナツをささげるために呼び寄せました。グルマーイはマイケルに、ささげる時にすべての力を出し切るように、そうすることでココナツが割れるようにしなさいと言いました。マイケルはそのようにしました。ココナツは水面と岩にぶつかった時に割れ、光をとらえた水のしずくが舞い上がりました。

グルマーイは、木々に囲まれているシヴァ神の美しいムールティのある丘へ向かって上り続けました。そこにはシヴァ神が深い瞑想の中で鎮座しています。彼の目は半眼で、内側を見詰めています。グルマーイはもう一度マイケルを呼び寄せ、シヴァ神の像に米を注いでささげ物をするようにと言いました。グルマーイの導きに従って、私たちは「ジャヤ・ジャヤ・シヴァ・シャンボー！ マハデーヴァ・シャンボー！」と称賛し、シヴァ神の像の上に純粋な白い穀物が滝のように注がれるのを見ました。シヴァ神のムールティの土台には、朝と夕方の「アーラティー」のこの節が刻まれています。

ॐ नमः शिवाय गुरवे सच्चिदानन्दमूर्तये ।
निष्प्रपञ्चाय शान्ताय निरालम्बाय तेजसे ॥

オーム。シヴァ神であるグルに敬意を。
彼の形は、存在と大いなる意識と至福である。
彼は超越的で、穏やかで、
すべての支えから自由で、光輝いている。

その時、私たちの身の回りのありとあらゆるもの——そっと揺れる木々、静かなる大地、流れる空、私たち自身の輝いている顔——の中にシヴァの存在を体験していると感じました。すべては永遠なるグル、シヴァでした。

それからグルマーイは、サイレントパスの頂上の近くに立っているシュリー・ハヌマーンの背の高いムールティへ、子どもたちと走って向かいました。私たち大人は後から続きました。この冒険にすっかり魅了され、次に起きることを見たいと熱望していました。

中国の暦では、今年は申(さる)年です。シッダ・ヨーギはシュリー・ハヌマーン——ラーマ神の献身的な召使いで、サルの中では最も勇敢かつ頭脳明晰(めいせき)——について、シッダ・ヨーガの道のウェブサイトで学んでいます。私たちは、献身的な奉仕の化身であるシュリー・ハヌマーンの威厳のある姿に、少しの間見入っていました。聖人トウルシーダースによる美しいドーハ、すなわち 2 行連句が、ムールティの土台に刻まれています。

सुमिरि पवनसुत पावन नामु ।
अपने बस करि राखे रामू ॥

風の息子が純粋な大いなる名前を繰り返し、
心の中に神を宿した。

グルマーイはシュリー・ハヌマーンをたたえて、「バジュラング・バリ・キー・ジェイ！」——「神の強さを持つ者に敬意を！」——と言いました。グルマーイに促された少年たちの内の3人は、ハヌマーンに色付きのろうそくを回しました。それは本当に喜びに満ちていました。日の光は木々の枝を通して舞っていました。私たちの行列はさらに進み、そよ風は長い草の中で優しく戯れていました。

アートマ・ニディに着くと、グルマーイはアムリットのデッキへの階段を上がりました。グルマーイは立ち止まり、下の行列を見詰めました。日の光を浴びた私たちの顔が黄金色に輝いていかに美しいかと、彼女は言いました。

散歩が終着点に近づいてくると、私たちはグルマーイの後からアンナプールナー・ダイニング・ホールに入りました。もう夕食の時間でした。とても優しく、グルマーイは食事の前に手を洗うように子どもたちに注意しました。ダイニングホールから出ていくグルマーイに、私たちは別れを告げました。

深い感謝の心をもって、今日私たちが完全に一回りして元に戻ってきたことに思いをはせました。今朝のセレブレーション・サツァングで、「アンナプールナー・ストートラム」を聞くことで、食べ物と栄養の女神の栄誉をたたえました。私たちの目的地に着いた今、デーヴィー・アンナプールナーの名を冠する場所に、食べ物が愛情を込めて提供され、受け取られる場所に、私たちはいました。礼拝し、願い事をし、サイレントパスを歩き、なんと栄光に満ちた夕べでしょう。

次へ続く...